

県外在住の家族の気持ちに寄り添って ～コロナ禍での看取りのかたち～

発表者：金子将之 末永あけみ

共同研究者：ポポロの森スタッフ一同

事業所：有料老人ホームポポロの森

はじめに

ポポロの森の入居者家族には、県内だけではなく、県外在住の方もいる。コロナ感染症の対策で看取りに立ち会えないといった例を目にするなか、今回、家族が面会での看取りを行う事が出来た。振り返りを行ったので報告する

利用者情報

ポポロの森 A氏91歳 女性 要介護4。

家族 (KP) 長女 (千葉)

既往歴：アルツハイマー型認知症、小脳出血
後遺症、難聴、骨粗鬆症、

ADL状況

移動・移乗：リクライニング車椅子全介助

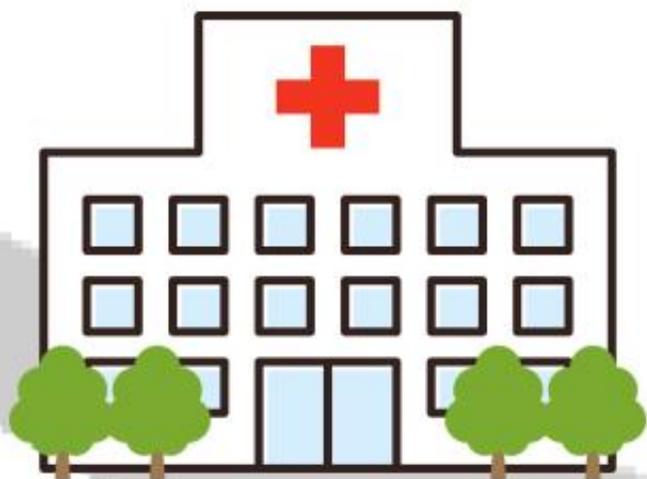
食事：栄養補助食 (エンシュア、エブリッチ、
エナジーゼリー他)、ミキサー食を全

介助

排泄：オムツ交換 保清：入浴、清拭

経過

入退院を繰り返し、それに伴い身体レベルは少しずつ低下していった。



経過

12月 急変し受診後、経過
観察目的の入院



2月 食事は経口摂取で
行い、看取りも視野に
入れて退院の話



経過

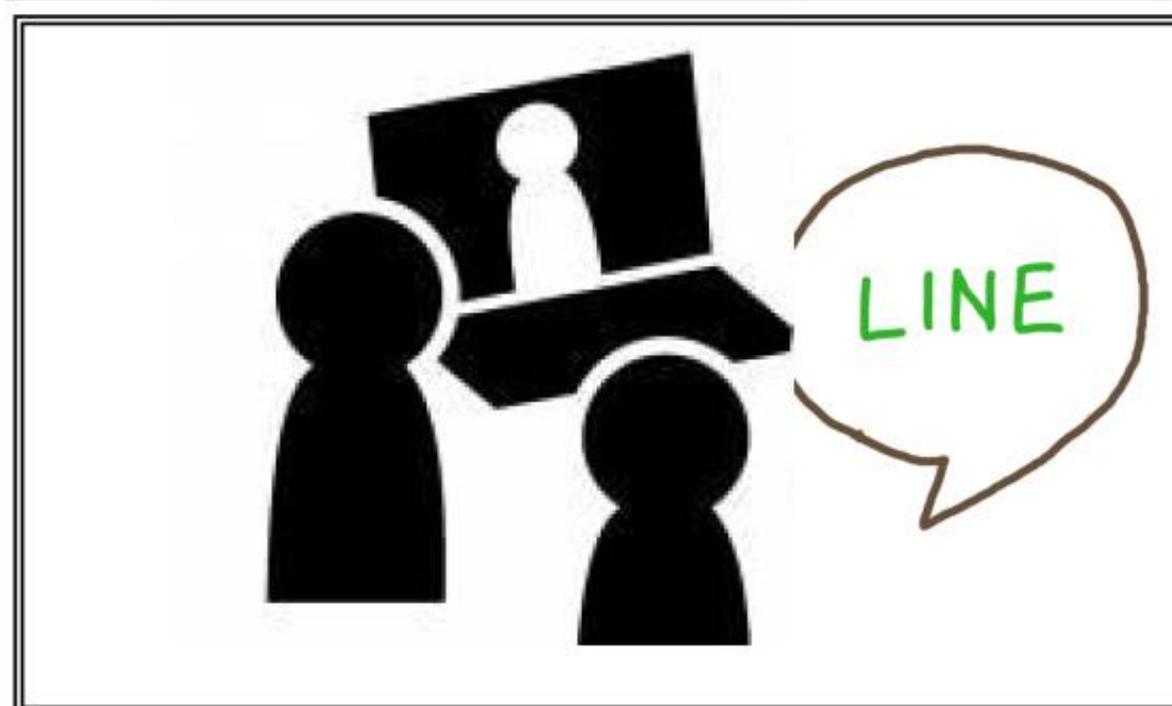
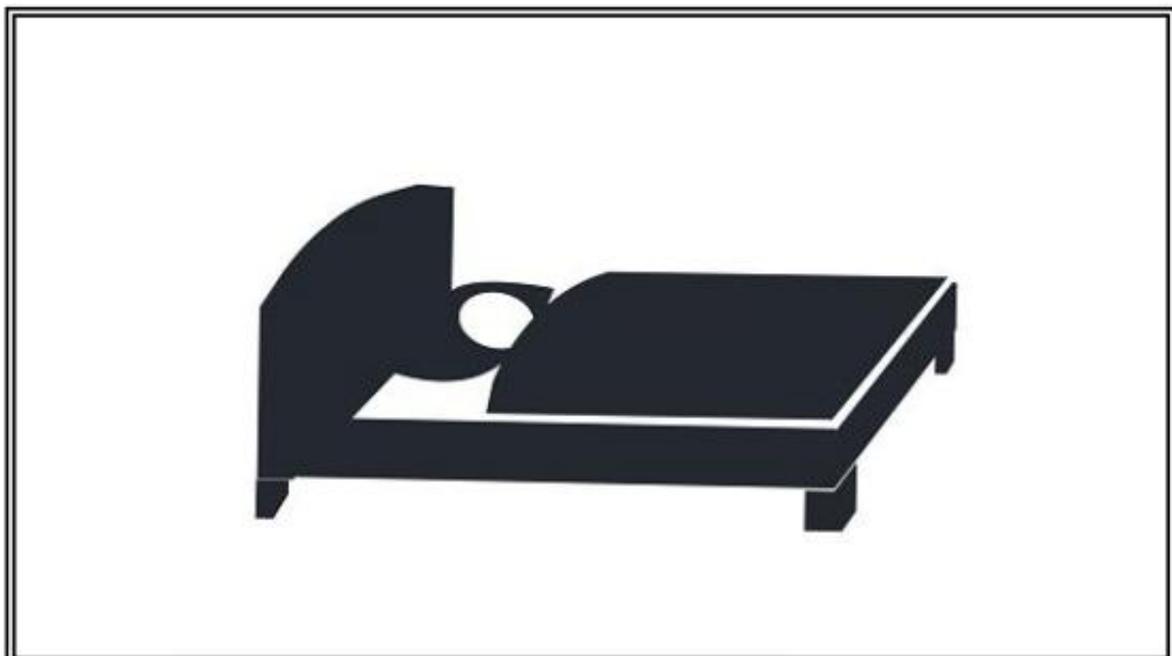


主治医が直接電話にて説明

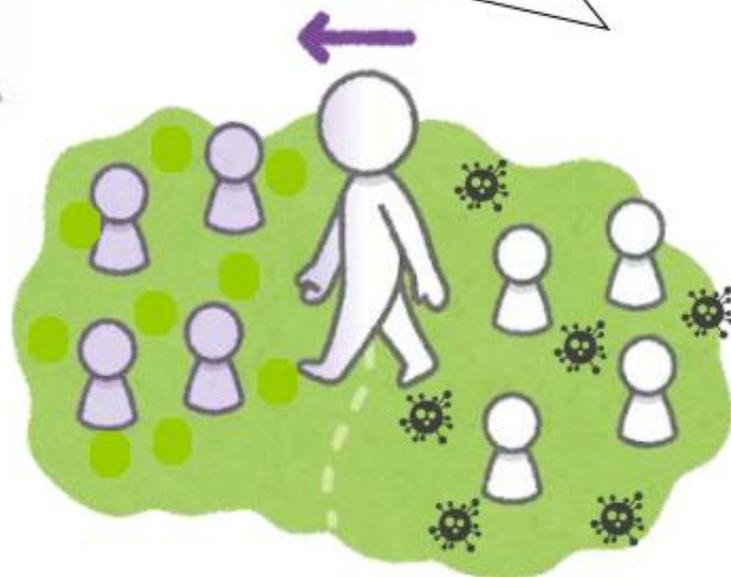
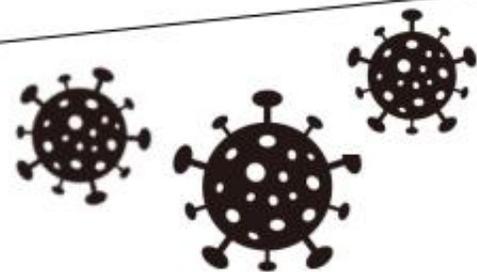
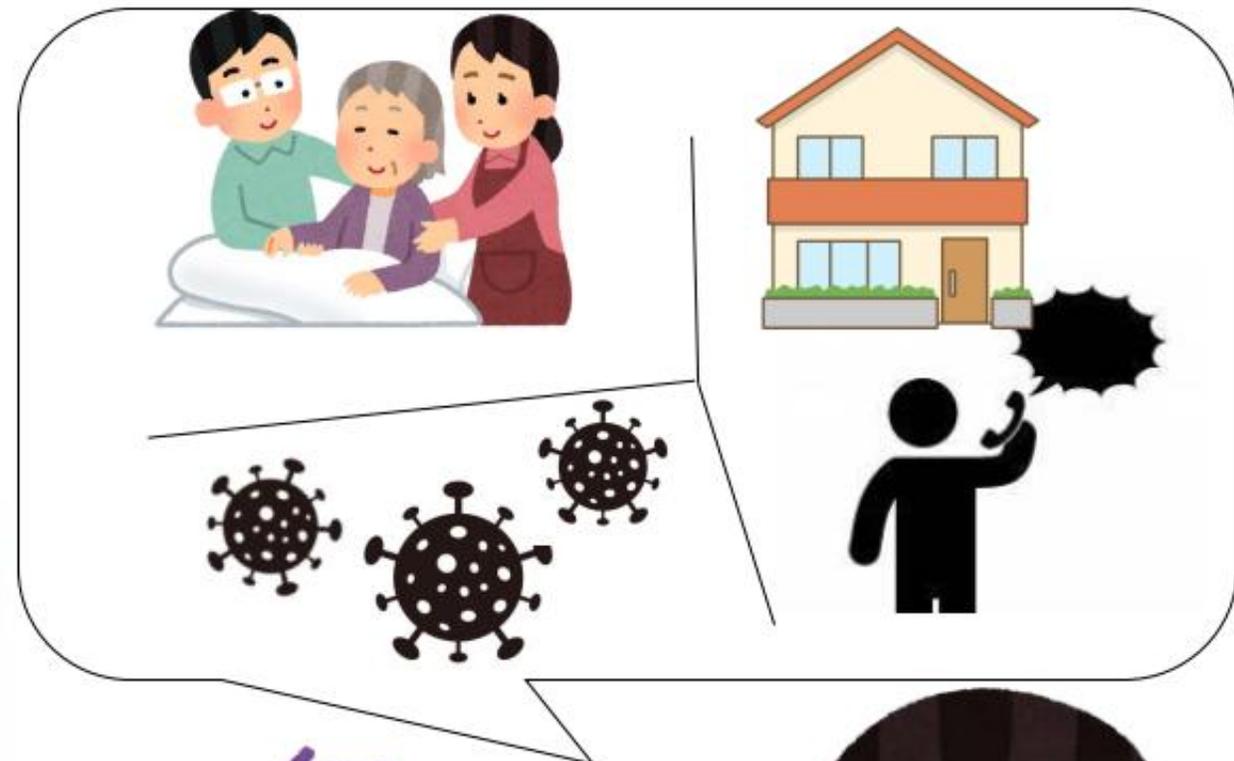


本人の状態を把握するため病院
でSTが行っている食事介助の動
画撮影を行い、共有した

經過



經過

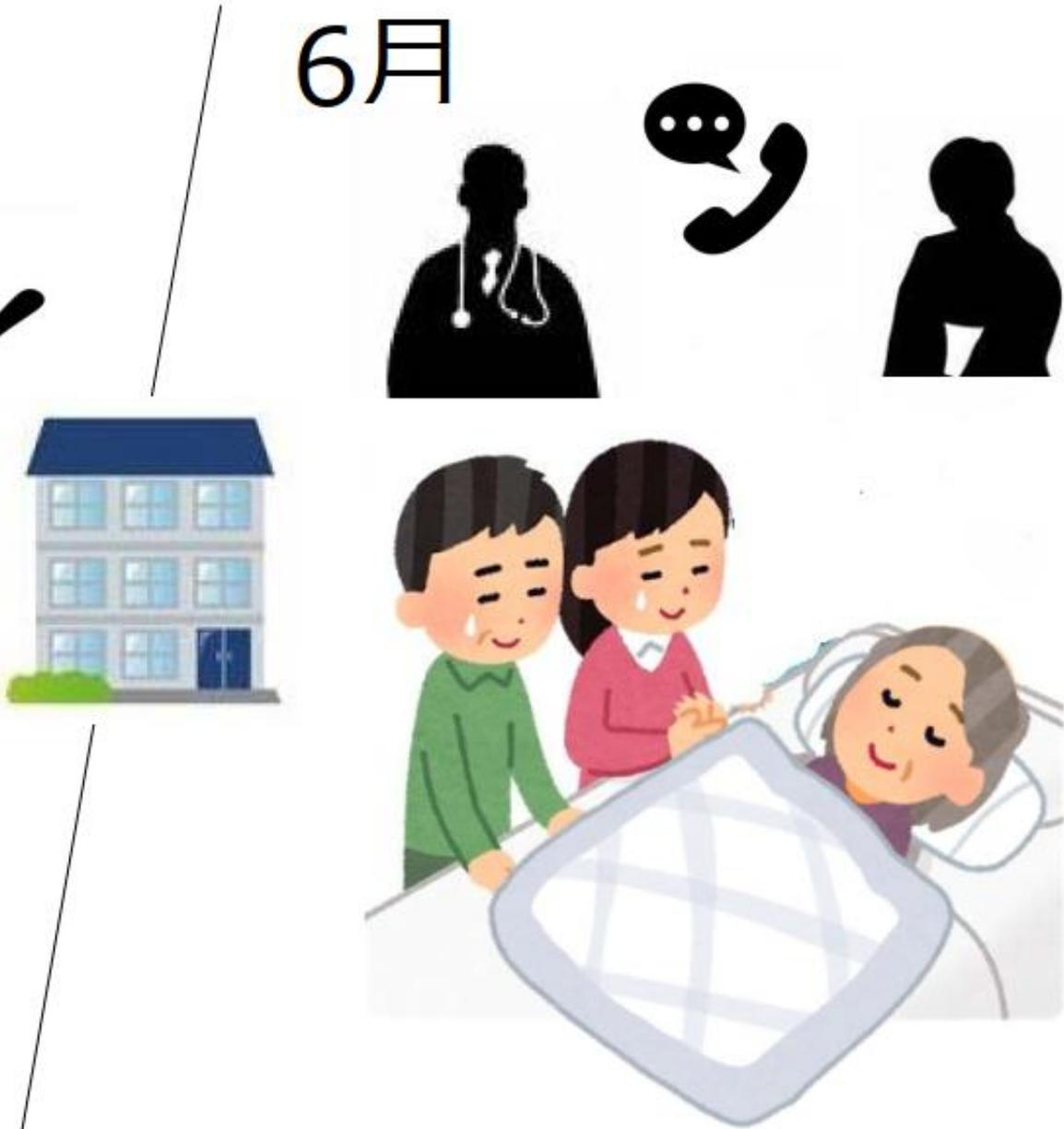


經過

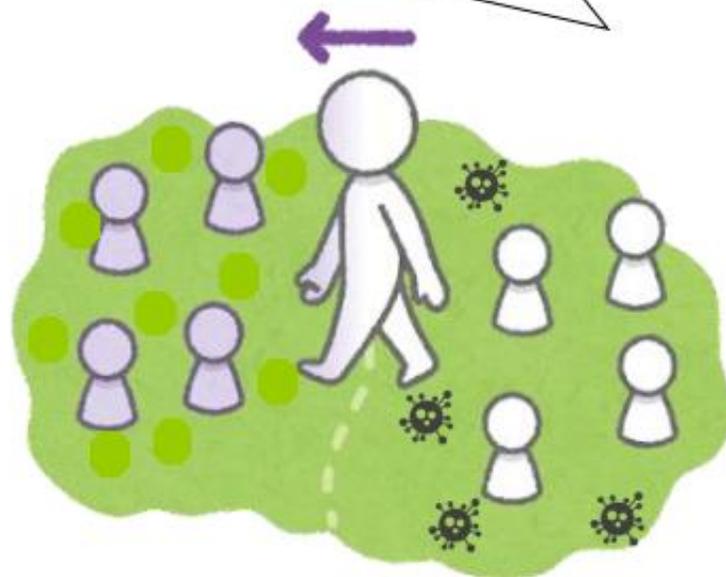
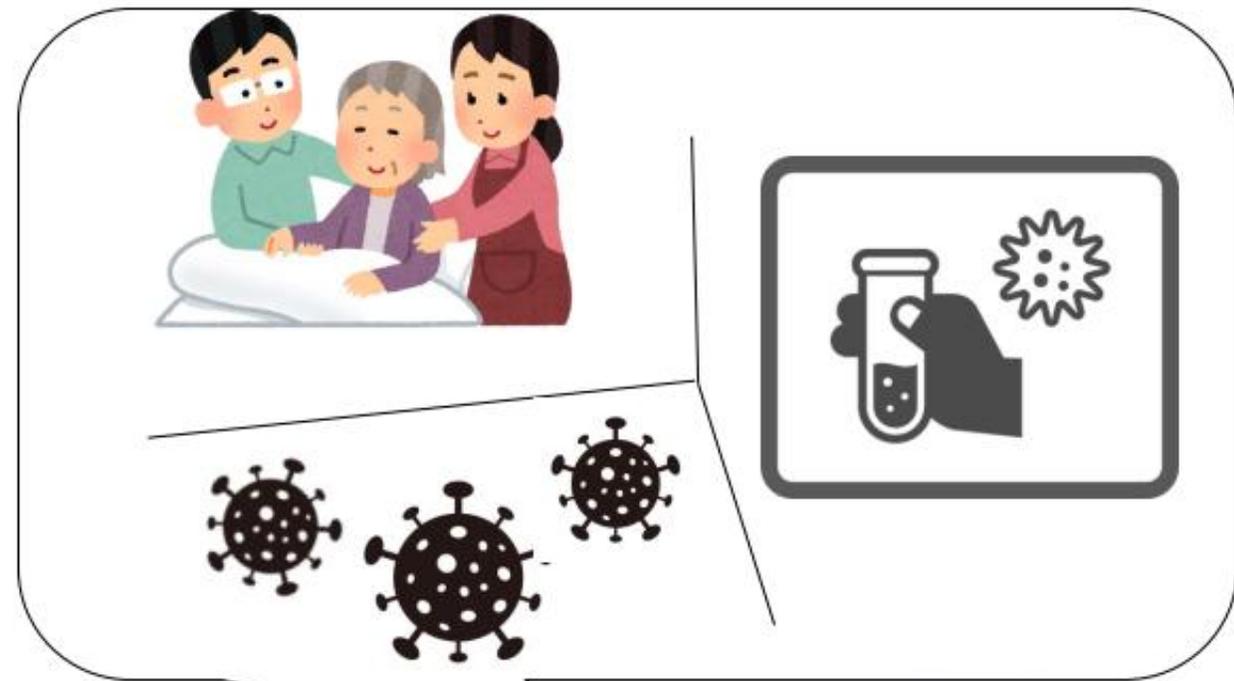
5月

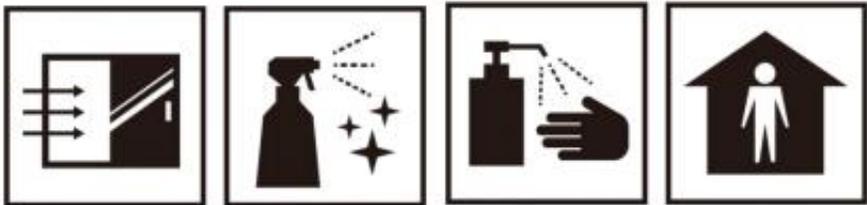


6月



考察





最後に





ご清聴ありがとうございました

